

<季語の蘊蓄(うんちく)。>

「青」・・・がつくと夏の季語。

青嵐、青蘆(あおあし)、青梅、青蛙、青田、青田風、青柿、青薄、青嶺、青とかげ、青簾・
などなど・

例外もある 青き踏む、青柳、青麦 は(春)の季語である。

<俳句豆知識>

歳時記 さいじき はいつごろからあるのか・・・1648年に「山の井(季吟撰)」である。
そこには 俳諧の題となる季節の風物の主要なものすべてをあげて配列し解説が付されて
いる。現在の歳時記とほぼ同じかたちができあがっていたのである。

歳時記は辞書であるとともに、いや辞書であることよりも「読み物」である。

絶対に退屈しない。森羅万象がそこにある。

だから海外旅行や無人島への旅行に一冊だけ持参するとしたら歳時記だという人も多い。
刑務所に収監される場合も同様である。

<名句鑑賞>

夏痩せて嫌ひなものは嫌ひなり 三橋鷹女

鷹女が六十歳頃の作品である。女性が開き直るとこういうことになる。潔い。

なぜ「夏痩せて」なのか、肉体の衰えはあっても精神は一向に衰弱するどころか ますます
意気軒昂であるということである。

右顧左眇することも諂うことも要らぬ。清清しさがそこにある。

<滑稽の作法>

【漢字表現】音量調節絶対不可能蝉時雨 と書いて硬さが出る。

それは暑さに通じる。頑迷な可笑しさである。些細なことを尤もらしくいう可笑しさであ
る。それは薄つぺらな人間が スピーチで、四文字熟語を駆使したり英単語交えたりする
のに似た可笑しさである。

<「滑稽俳句協会報」より>

まじの風宮崎県庁執務室 (工藤泰子)

まじの風永田町では竜巻に

<八木 健の 365 句> 風あれば風にしたがひ枯芒

<山口誓子の 365 句> 巨き船造られありて労働祭

< 季語の蘊蓄(うんちく)。 >

傍題・・・について以前に書いたような記憶があるが、月とか花(桜)は傍題が50ぐらいあることは認識しているが、思いがけない季語の傍題の数に驚くことがある。ああそうか・・・昔の人はこんなモノに強く惹かれたのかと気がつくのだ。

たとえば「柳」の傍題・・・風見草など20ぐらいある。

意味不明のものもある。「柳畑」は柳を栽培したのか 若柳と姥柳はどの時点で使いわけするのか・・・

< 俳句豆知識 >

句会・・・火曜日の午後1時から開催する「愚陀佛庵句会」がテレビで再三紹介されて、昨日も先月24日にBSフジで放送された旅番組の再放送がテレビ愛媛であった。

かなり名の知れた歌手と女優のおふたり・・・ごめんなさい名前を忘れた・・・が 愚陀佛庵句会に参加するというもので いきなり詠んでもらったがふたりとも なかなかの句を披露した。

前段で私が「俳句は瞬間につくるほうがいい。短時間であればあるほどよるしい」・・・と説明したために、創って見せることになり実演したが、テレビを見ている方は、かなりスリルを感じたのではなかろうか。

「萬翠荘への坂道を満開の桜を見上げながら登ってきました」それではそれを詠みましょう。「満開の桜や見上げつつ歩く」これでよろしいですか。

私は 複数の句会に参加していて 大部分はその場でつくる。

10年ほど前に「八木健のすらすら俳句術」という本を岳陽舎から出した。

いまだに売れているが、その中で「一句二分」でつくと書いている。

実は 創るのは 30秒もあればいいので文字に書くのに1分半はかかるということなのである。

< 名句鑑賞 >

目には青葉山ほととぎす初鯉 山口素堂

俳句に使う季語は「一句にひとつ」だが 例外もある・・・という説明に使う句である。

素堂は芭蕉の時代の俳人で芭蕉とも交流があった、季語が青葉 ほととぎす 初鯉と複数あるが、複数の場合には中心になる季語があれば許される・・・この句では 初鯉が中心の季語。初鯉をたべながら眼に映る青葉 耳には ほととぎすの声を聞いているのである。

< 滑稽の作法 >

【漢字表現】杉花粉飛散花粉症悲惨

< 「滑稽俳句協会報」より >

世辞なんて言わなくていい殿様蛙 (鈴木和枝)

足軽の蛙はとかく饒舌で

<八木 健の 365 句> 大井戸に映る秋空青一枚

<山口誓子の 365 句> 松の花きのふはここに潦(にわたづみ)

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 3 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)。>

青葉と若葉 とともに夏の季語だが 時期的には若葉のあとに青葉となる。

なお ひとかたまりにした「青葉若葉」と言う季語がある。

芭蕉の名句「あらたふと青葉若葉の日の光」(あらとうと)

<俳句豆知識>

添削と推敲 誰かの俳句に筆を入れることが添削である。

自身の俳句を見直して修正するのが 推敲である。ともに俳句に限ったものではないが、

添削という用語をご存知ない方から「修正して下さい」などと手紙をもらうことがある。

滑稽俳句協会もこのたび 毎月の投稿句での 「添削希望」を受け付けることになった。

添削したものを協会報に掲載する。結社誌の場合多くはそうしている。

滑稽俳句協会の場合 添削例の欄「八木健の句リニック」を創設した。

添削の手順なども紹介するから 推敲の参考になるはずである。

<名句鑑賞>

蚊の声す忍冬の花の散るたびに 与謝蕪村

この句について処々方々に書いたので 多くの方が、すでにお読みになっていると思うが

「なぜ蚊の声がするのか」250 年の間、誰も読み解くことはなかった。のだが、

八木健が数年前に解釈した。俳文学者の山下一海先生は「そういうことでしたか」と

手紙をくれた。蕪村は 画家でもある。画俳二道である。忍冬「すいかずら」の花を細筆

で描いていて、花が蘂をたらしている様が 「蚊」が脚をたらしているかに見えたのである。

花びらは蚊の翅である。花が散る。そのたびに蚊の声が・・・蕪村の意識のどこか

で花と蚊の混同が生じた。蚊の声がする忍冬の花の散るたびに とりあえず句にしてお

こう、自身の精神の記録である。頭に浮かんだことを書くのが俳句だと 後世の八木健も

言っているではないか、と蕪村は 誰もわかるはずはない・と思いつつ句帳にしたためた

のである

<滑稽の作法> 【漢字表現】薫風量産全山花蜜柑 健

この句を 薫風や一山すべて花蜜柑 としたのでは 何の変哲もない作品となる、

滑稽は「誇張」である漢字表現は誇張の手法のひとつと考えたい。

<「滑稽俳句協会報」より>

俳諧の道はいよいよ五月闇（永島董玉）

俳人の魑魅魍魎(ちみもうりょう)となる気配

<八木 健の 365 句> 穴だけの眼に睨まれて目刺食ふ

<山口誓子の 365 句> 桐の花電線二本過ぎゆくも

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 4 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)。>

霞 かすみ 春の季語である。 同じ成分でも秋は「霧」という。

冬の霧 夏の霧 はあるが 春の霧 という季語はない。霞があるからである。霞き古来、俳人にもてはやされたらしく 傍題が多数 初めて出会った季語も その例、しまひね 白玉ひめ 春のほだし かたち・霞の帯 場所・霞の谷・時刻・朝霞 夕霞・などでさまざまな呼び名が変る

<俳句豆知識>

愚陀佛庵句会 このメルマガのタイトルは 愚陀佛庵通信 となっている。

愚陀佛は 明治 28 年 松山中学の英語教師として赴任した夏目漱石の雅号で、下宿した二階家に名づけた。

戦災で消失したが、昭和 57 年に萬翠荘の裏の山の中腹に 忠実に復元された。

一階、二階ともに四畳と六畳。ここで去年の 7 月から毎週、句会を開いている。

句会はどなたでも参加できる。超結社 俳句歴を問わずである。

前日までに 089-921-3711 へ参加希望の電話を入れてくださるとありがたい。観光客の場合は 飛び入り参加大歓迎である。

初めての参加でも 20 年ぐらい前から友人だったように錯覚するから不思議なもの。

今日は火曜日、愚陀佛庵句会開催日である。

愚陀佛庵句会は 114 年前に正岡子規が 愚陀佛庵に 52 日間、居候したときに 指導した日本最初の俳句結社の名・松風会を襲名した。

作品は萬翠荘公式ホームページの愚陀佛庵句会のページに掲載公開している。

ばんすいそう・・・と仮名で入力すれば検索可能

滑稽俳句協会のホームページのトップページからもリンク可能である。

<名句鑑賞>

永き日を囀り足らぬ雲雀かな 芭蕉

現代の俳句としても見分けがつかぬ作品である。俳句は 300 年間。進歩していないことが良くわかる作品である。永き日 囀り 雲雀 季語が複数あるが 「かな」のついていない季語 雲雀が句の中心となる季語である。ここで気づくのは 補助的な季語「永き日」があるから「囀り足らぬ」が生きてくるということである。芭蕉は季語を複数つかうことを

推奨しているがいつの間にか 季語はひとつだけ使う。と指導されている。季語がふたつあるだけで見向きもしない指導者が大半である。

<滑稽の作法> 【一見してこじつけ・・・】寒梅の白告白と同じ白 健

白をきわめている白梅の花びらを見て、その白さに感動しての句。こんな風に白くなりたい。告白したときに自身が澄んだ気持になる。その告白の白は 白梅の白と同じということ。一見して「こじつけ」のように見えて実は 理屈があったのだ

<「滑稽俳句協会報」より>

七夕竹太き癖字の褒めらるる (桜井宇久夫)

書かれたる願ひはありきたりなれど

<八木 健の 365 句> 捨てかねてゐる掌の中の落し文

<山口誓子の 365 句> 武具飾る光る眼も手も足もなし

愚陀佛庵通信

2010年 5月5日 号

<季語の蒔蓄(うんちく)。>

余花(よか) と残花(ざんか)

「余花」は初夏の山中でみられる桜のこと 夏の季語 「残花」は同じようなものだが春も終わりになって咲き残っているの意 春の季語

<俳句豆知識>

古句を読むのもいいね・・・

俳句の入門書では得られない楽しみは 俳句の古書である。滑稽俳句協会報では 佐藤紅緑の「滑稽俳句集」(明治三十四年刊)を高橋素子氏の協力を得て 読解を連載しているが、かなり面白い。上京するたびに神田の古書街をぶらり。思いがけず楽しい俳句集に出会うこともある。

最近見つけた「凡兆」句集の一句に「野馬に子供を遊ばす狐哉」

野馬は陽炎(かげろう)のこと。

句意は「かげろうのなかで狐が子狐を遊ばせている」という幻想的な風景である。幻想が自在に句になる。温故知新である。

<名句鑑賞>

葉桜の中の無数の空さわぐ 篠原梵

葉桜の間に空が見えた。葉がちらついている・・・ということのだが「無数の空さわぐ」がうまい。葉ではなくて 空にしたのがいい。俳句は一箇所 独創があれば 後世に残る 愛媛県伊予市出身の篠原梵のこの句碑は 松山の石手寺境内にある。

<滑稽の作法> 【なぞなぞ俳句】なんでせう花火が簾にかはる実は 健
葉が落ちて赤い実だけの柿の木 「柿花火」の季語 干柿をつくるために
剥いて簾のように吊るす。これが「柿簾」の季語 謎謎俳句の答えは「柿」である。俳句
を始めて三年目ぐらいに作った馬鹿馬鹿しい句だが、川崎展宏さんに 褒められた一句。

<「滑稽俳句協会報」より>

何処より見ても平らな揚花火 (杉村福郎)
特別席と同じかたちに見え花火

<八木 健の 365 句> 白酒にあり饒舌の原因は
<山口誓子の 365 句> 蟻地獄砂の切れ味あざやかに

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 6 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)。>

まひまひ 水面に輪を描きながら進む黒い小さな昆虫。
水澄(みずすまし)のこと 学名も「水澄」である。ところが一部地域では アメンボのこ
とを「まひまひ」というからややこしい。
もっとややこしいのは「まひまひ」は「かたつむり」の別称でもある。

<俳句豆知識>

このメルマガにかつて 歳時記は 「読み物」であると・・・書きました。暇に任せてペ
ラペラ・・・必ず 発見がある。知らない季語には興味深深あるいは思い込みに気づくこ
ともある。たとえば 季語の「氷水」がそれ。
水のことかと思っていたら、「かき氷」のことだった。嗚呼 夏の季語の「お花畑」も
そのひとつ 「お花畑」は標高 2500 メートル以上の高いところには高山植物が群生してい
る。雪解け後にいつせいに花をつける・これがお花畑。 なお「花野」は秋の季語

<名句鑑賞>

吹き消したやうに日暮るる花野かな
この句の作者名をあててください・・・と言われて ? 虚子が 蛇笏か・正解は
小林一茶である。「吹き消したやうに」筆者にもそんな記憶がある。それにしても俳句は
進歩していない。というかすでに名句がつくられているからそれを超えるのが課題

<滑稽の作法> 【なぞなぞ俳句】エジプトの首都で使ひし暖房具

エジプトは「埃及」と書く。なぞなぞ俳句の答えは「懐炉」である。滑稽俳句に筆者が切り開いたというか思いついた分野であるが、なぞなぞ俳句は「季語を隠して」読者に見つけさせるのが手法のすべてである。

<「滑稽俳句協会報」より>

水盗むことも覚えて農を継ぐ (永井一朗)

窃盗も強盗もある水泥棒

<八木 健の 365 句> 節分やうぶな青鬼赤くなる

<山口誓子の 365 句> 尾のさきとなりつつもなほ蛇身なり

【お知らせ】俳句メルマガ 明日と明後日 休みます。毎月のことですが 横浜のランドマークにある NHK 文化センターに八木健の俳句塾 に行くのです。五年ばかり続けています。ほかにメルマガ休むのはパソコンの不具合・・・の場合です

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 9 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)。>

凍蝶 いてちょう 冬の蝶である 寒さのために動けない蝶のこと 五木ひろしが紅白で歌った曲のタイトル 作詞は 喜多条忠さん 神田川の作詞家と言えただれも知っている。喜多条さんは 子供の頃にこの 「凍蝶」を知っていた。広辞苑を読破したので掲載されているページのどのあたりに 「凍蝶」があるかも知っていた。貴方はもう忘れたかしら 赤い手拭いマフラーにして・・・神田川は 20 分ほどで作詞され 南こうせつ は、この曲を二分で作曲した・・・と先日のこと直接お聞きした。季語の蘊蓄が脱線したが 戻すならば・・・季語には名曲のタイトルになるほどのパワーがあるということである

<俳句豆知識>

月刊・俳句新聞・・・ひたちなか市の黒田青磁氏が発刊している B4 サイズで 4 ページほどの新聞 である。全国の俳人の代表句や最近作が掲載されているほか 俳人の近況なども。この新聞に私は「可笑しい俳句講座」を連載している。現在 61 回になる。最新号の「可笑しい俳句講座」の末尾に「読者の反響」が付されていた。

読者より「可笑しい俳句講座」を楽しく拝見しています。面白くて実作に役立つ文章で、読んだ日は、五、六句作れます。(栃木県 篠崎生)とあった。うれしい反響である。

全国に俳人は 1000 万人ぐらいいるのだが・・・つまり俳壇広しと言えど 滑稽を掲げて旗振りをしているのは八木健だけなのである。芭蕉以来失われている滑稽を俳句に取り戻す運動である。

< 名句鑑賞 >

人みても人みなくても赤とんぼ 深見けん二

ありのままを詠っているが、人を意に介さない赤とんぼの毅然としたさまを詠んでいて可
笑しい句なのである。俗にいて俗に染まらぬ赤とんぼを詠んでいる。深見けん二 さんは
虚子の直弟子である。上品でやさしいお人柄は 私の心に強く焼き付いている。ホトトギ
ス同人で花鳥来 主宰

< 滑稽の作法 >

【誇張】滑稽俳句の主たる技法のひとつである。海原をもちあげてみる鯨かな 健 が
それである。ホエールウォッチングの 寸景である。海原をもちあげたりするわけがないの
だが・・・感じたままを書くとそうなる。つまり非科学的ということなのである。

< 「滑稽俳句協会報」より >

お姐さんと呼ばれて買ひし風鈴市 (三橋一笑)

おばちゃんと呼ばれ財布を引っ込める

< 八木 健の 365 句 > つくり方ルーペで読んで夜食かな

< 山口誓子の 365 句 > 薔薇垣の夜は星のみぞかゞやける

【お知らせ】 虎造節全国大会は 9 月 23 日(秋分の日)に浅草の木馬亭で開催する。実行
委員長に 杉弘光さん(虎造のお孫さん)が決まった。出場者募集のポスターを、木馬亭と
浪曲などアナログレコードの専門店 浅草のイサミ堂に貼ってもらった。

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 11 日 号

< 季語の蘊蓄(うんちく)。 >

十葉 じゅうやく 「どくだみ」のこと 梅雨どきに十文字の白い花をつける。季語とし
てはその「花」のこと。毒草と勘違いする向きもあるが、十葉というほどの薬効あり、毒
を矯めるという意味である。

< 俳句豆知識 >

一昨年の秋に出版した「平成の滑稽」は八木健編で本阿弥書店から出版した。定価は 1500 円である。この本が今、5000 円前後の値がついている。インターネットの古本市場では 4999 円 5000 円 と出ている。新刊の句集が出版から二年足らずで 3 倍以上の価格になるというのは 珍奇な現象である。一般的には「句集は売れない」のが常識。著名俳人でも多くは贈呈である。だから「平成の滑稽」を多くのかたがたが「読みたい」というのは・・つまり値打ちのあるものとなったわけである。「平成の滑稽」には 月刊俳句総合誌「俳壇」の微笑俳壇に掲載した六年間の句 1500 句が掲載されている。人妻をしかと抱きしめ 村芝居・魚田浩之 打ち明けてもらつて困る良夜かな 山本賜 などという句が出ている。このことからすると・・月刊の滑稽俳句協会報のバックナンバーは早晩、「値打ちもの」となる筈である。

< 名句鑑賞 >

翺雲人に告ぐべきことならず 加藤楸邨

現代俳句は 多くは「とりあわせ」である。そして優れた句は 難解である。この句は 「難解俳句」の代表である。しかし、脳の活動をそのまま書くのだからこれほどわかりやすい句はない。「人に告ぐべきことならず」作者にとつては重要であるが他人に相談しても仕方ないといこと、あるいは告白してはならぬこと。が脳裏に浮かんだのである。

< 滑稽の作法 >

【誇張】雲の峰芯のあたりは固からむ 健 俳句は非科学的なものであると幾たびか 本欄に書いた。雲の峰はもくもく・・中にドライアイスがあるだろうと瞬間的に思った。昭和 35 年頃、筆者は日大芸術学部放送学科の学生でありながら 今のテレビ朝日(当時は日本教育テレビという社名で港区麻布材木町 55 番地にあった・・番地を覚えてるのがスゴイ)の編成局美術課に在籍して正社員ではないが

「月給」をもらっていた。美術進行という係で水を入れたバケツにドライアスを投げ込んで 霧を発生させたりしたことがあり・・その記憶が掲出句となった。滑稽の作法に話を戻す。脳裏に浮かんだことを書けばそれが滑稽になる。つまり 本人はマジメでよろしい 読者が滑稽を感じるのである。

< 「滑稽俳句協会報」より >

全力で力抜きては瀧落つる (田代青山)

瀧壺へ落つる引力まかせかな

< 八木 健の 365 句 > 正義漢らしきに蹴られ毒きのこ

< 山口誓子の 365 句 > 筍は黒き皮にて胸合はず

<季語の蘊蓄(うんちく)。>

使いやすい季語・・・この時期に句会の雑詠で登場する季語はたけのこ 鯉幟 若葉 青葉
こどもの日 母の日 などである。

誰にもわかる季語である。だから使いやすい。著名俳人でも300ぐらいしか季語を使わない。しかし歳時記には たくさんの季語がならんでいるから歳時記の季語を読んで面白い季語に挑戦すると句の幅がひろがるのである。たとえば「河鹿・かじか」河鹿蛙のことで溪流に住む小さな蛙。雄は雌より小さい。鈴を転がすような美しい声で雄が鳴く。その声をめでる。「河鹿笛」という季語もある。

<俳句豆知識>

昨日のこと・・・「萬翠荘の担当記者になりましたのでよろしく・実は八木先生の俳句学の講義を受けた一期生です」という電話がありました。

愛媛新聞に就職して映像取材部に配属されたとのこと。まずはおめでとう。めでたい・・・のは 就職できたことも勿論だが。新聞記者が大学で俳句を学んだ・・・ということ。

全国の大学で「俳句学」というタイトルの講座は、愛媛大学だけである。当時の学長・小松正幸先生から「子規山脈の裾野を担う人材の養成」をと、お話をいただいたのだったから。俳句学の受講生が新聞記者になったということは、すくなくとも俳句に強い記者が誕生したということである。当初の目的に一步近づいたと言ってもよい。今日も四時限に俳句学がある。俳句は他の学校でも教えている。

昨日は愛媛医療専門大学で「人間と文学」という講座を・・・こちらは ハイクアートをにぎやかに。学生に取り巻かれて実演をしてみせて・・・あとはみんなに作ってもらった。午後は愚陀佛庵で松風会の句会。13人の参加を得て肅々と2時間の句会。薔薇展に来た短歌人も選句のみ参加なされた。松風会は昨日は、宇和島から二人、大洲からひとり・遠方からご苦労様。最高齢は90歳を超える男性、マイカーを運転しての参加である。俳句に年齢は関係ないが。

<名句鑑賞>

曼珠沙華どれも腹出し秩父の子 金子兜太

金子兜太の代表句で 萬翠荘の俳句展示にも金子兜太の10句として掲出し来訪者の人気を得ている。曼珠沙華と取り合わせた秩父の子が「腹出し」と可笑しい。珠は広辞苑の第五版から「殊」と書くようになっている。

<滑稽の作法> 【誇張】折れば血の出さうな色の寒椿 健

そんな気がした・・・をそのまま書くと結果は誇張である。

<「微苦笑俳壇」より>

春隣埋めて掘つてはまた埋めて 宇井偉郎

年度末に集中する道路工事のこと。春の季語として「春耕」と呼びましようか。予算を年度内に消化しないと、来年貰えなくなるから来年分の予算を先払い。これを「おとりおき」と呼び、春の季語に。

<八木 健の 365 句> 父の日の父暮敵でありにけり

<山口誓子の 365 句> 山窪は蜜柑の花の匂ひ壺

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 13 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

季語は 旬(しゅん)のものである。

年間を通じて発生し存在するものでも、特に盛んな時期が季語の季節となる。

「草取り」は夏にもっとも草が蔓延(はびこ)るから夏の季語、「出水(でみず)」という季語がある。雨がたくさん降って河川が氾濫すること。これは台風シーズンの秋だろうと思ったら梅雨の長雨のあと、梅雨の終わり頃に河川が氾濫することで夏の季語だった。

秋は「秋出水」と呼ぶ。

<俳句豆知識>

俳号について・・・愚陀佛庵(ぐだぶつあん)の「愚陀佛」は夏目漱石の俳号である。芥川龍之介は小説家であり俳人だったから俳号は「餓鬼」だったが、今では歳時記には餓鬼ではなく龍之介として出ている。

正岡子規は 100 ほどの号を持っていた。これは号を楽しんだので別格。

昨今、配合は誰かに「知られたくない」場合に使うことが多い。たとえば「A」という結社に属しているのに「B」という結社に誘われて・・・ことわり切れずに B にも入会する。A の主宰に知られるとマズイので号を使う。

私は 八木健で俳句は「たけし」としていたが ハイクアートを雑誌に掲載する場合、アートは「KEN」で俳句は「たけし」で別人のようになるので出版社の担当から「八木健」として、連載中の雑文ともに統一するように勧められた。のだった。尚「子」をつけた 俳号の多くは男性である。藤田湘子 山口誓子 水原秋桜子 高浜虚子みな 男性である。

<名句鑑賞>

いくたびも月にのけぞる踊かな 加藤三七子

「月」も「踊」も秋の季語である。俳句で「踊り」は盆踊りのことである。

句は自身の体験を書く。俳句はまず自身の体験を書く。「月にのけぞる」は、踊りの所作で、のけぞるたびに「月」が 視野に入る。ということ。

<滑稽の作法> 【思い込み】木枯は送電線に来てとまる

風は吹きぬけてゆくものだからひとところにとどまることはない・・・のだが音の存在をもって、木枯の現在地を断定したのである。非科学的、思い込みこそ 滑稽俳句の原点である。以前にもどこかで紹介したが愛媛大学全体の俳句コンテストで私が選んだ最優秀句は 附属小学校二年の河野ふうかさんの句で「思い込み」の句

北風さん走りつかれてそよ風さん・・・だった

<微苦笑俳壇」より>

山はなぜ目覚めてすぐに笑ふのか 神谷敬三

俳句は作者が思ったことを書く。敬三君はそう思った。それを読者が共感してくれれば佳句となる。だから反対の場合もあるわけでその場合は「いつまでも目覚めず仏頂面の山」となるのだろう

<八木 健の 365 句> 溺れある虫に近づき魚の口

<山口誓子の 365 句> 富士の雪残るところを狭められ

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 14 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

俳句を勧めると「季語を知らないからねえ」という方がほとんどです。

誰でも、普段 200 ぐらい・・・季語を口にしているのですが、それを季語と気づかないだけなのです。ビールは夏の季語。西瓜(すいか)は秋の季語。

冷蔵庫は夏の季語。風船やぶらんこは 春の季語。季語は知っていても季節が春なのか 冬なのか・・・ご存知ないということ。俳句は季語を 200 知っていれば十分です。著名俳人でも 300 ぐらいしか使わない。

いかがですか 安心なさいましたか。季語の蘊蓄の欄は 俳句は季語が難しいものと勘違いさせる弊害もあるのですが 俳句歴の長い方には興味深々の項目も必要なのです。だから思いがけない季語をご紹介します。俳句の「知る楽しみ」のひとつですから

<俳句豆知識>

愚陀佛庵(ぐだぶつあん)句会

今日から このメルマガを読みはじめる数名の方のために 初日にふさわしい内容を書きます。愚陀佛庵は松山中学の英語教師として赴任した夏目漱石が下宿した木造二階家で萬翠荘の裏手にある。

ここに正岡子規が胸を病んで一時帰郷した際に居候したのです。52日間 滞在して松風会という日本派の結社の面々に俳句の指導をしたのでした。愚陀佛は夏目漱石の号でお陀仏のパロディーであることも可笑しいですね。ここで去年の7月から毎週火曜日の午後1時から句会をひらいています。雨が降ろうと槍が降ろうと開催する・・・年中無休なのですが、たまたま来週の火曜日は文化庁の学術調査のため萬翠荘が閉館になる。そのため愚陀佛庵句会はお休みとなります。

この句会には 10名ほどの参加があり句会に出された二句のうち一句を萬翠荘のホームページに掲載しています。その句会は「松風会」の名を受け継いだのですが、私はこのほど 愚陀佛庵句会の心得・・・を書いて会員にお示ししました。以下多少永くなりますが・・・初心忘るべからずなのでここに転載しておきましょう。

この句会は超結社の句会です。

俳句の経験は問いません。したがって俳句歴は関係ありません。

この句会は先輩後輩の序列はありません。ただし大切なのは礼儀です。

端的に言えば「挨拶」です。挨拶のできない人は俳人としての資格はありません。

愚陀佛庵にくるのが楽しくなるように、「すべての参加者に「敬意」と「親近感」を抱いてください。それは「本当の俳句を追求する」という仲間意識が前提になります。

俳句のことだけをお考えください。俗世の煩雑で憂鬱な人間関係と対極にあります。

人間の好き嫌いを抱くようでは 松風会に参加する資格はありません。松風会という素晴らしい句会名を受け継ぐ名誉は、良い作品、新しい作品を生み出してこそ維持されます。

俳句についての知識を勉強するのではなく感じる心を養うことこそ大切です。そのために、心を空っぽにする必要があります。

虚心こそ俳句の道です。虚心になれない人は俳人になれないのです。八木健覚

・・・つまり俳句は文芸の一分野ですが武道と同じく人生修養の場でもあるのです。

<名句鑑賞>

鳥渡るきこきこきと罐切れば 秋元不死男

名句鑑賞はいろいろな方がしていて、大方は同じような解釈をなさるのですが 俳句というものは それぞれの受け止め方は自由なものですから 私は 独自の視点で解釈をしています。この句でなにがポイントか・・・

「こきこきこきと」ですね。確かに缶切る音はそんな感じですが渡り鳥の羽の動きが「こきこきこきと」なのです。そのことは秋元不死男さんは意識していたかどうかわかりませ

んが 季語の「鳥渡る」が一句の中心的な存在なので、こきこきこき・・・の羽の動きが缶切の動作と音にも通じたのです。

<滑稽の作法>

【感じたままを】

書けば滑稽句になります。人声に聞き耳を立て水芭蕉 健
水芭蕉は 静かな溪流や湿地に生育しています。そこに俳人たちがやってきて・・・お喋りしながら吟行しているのです。つまらぬ噂から日常の雑言まで・・・俳句と関係ないことを口に出しているのでしょう。だから水芭蕉は聞き耳を立てる水芭蕉は 耳のかたちをしていますから

<「微苦笑俳壇」より>

啓蟄(けいちつ)に大腸検査より凱旋 壽命秀次

大腸検査は不吉な予感を抱えて臨むから不機嫌になりがち。周囲にあたり散らす。

検査の結果が「異常なし」で態度がコロリ変わる。それが凱旋。

「大腸検査・あれは気持ちいい。君もおやりよ」と

<八木 健の 365 句> たんぼぼのわた毛を吹けば芯残る

<山口誓子の 365 句> 蓮弁の崩れてゐるは此の世なり

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 15 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

紫陽花 (あじさい) 傍題に・・・花の色が変化するので「七変化(しちへんげ)」はなびらのかたちから 「四葩(よひら) 花のかたちから 「手鞠花」。学名は「オタクサ」でシボルトが長崎の遊女で愛人の「お滝さん」からとつた。

<俳句豆知識>

俳人になるのは簡単である。一句つくってみればその瞬間に俳人になれるのである。愛媛大学の俳句学の講座でも冒頭に「15 回の講座で必ず俳人に見せませす」と言うことにしている 空手形ではない。必ずなれるのである。12 日の俳句学では天気がよいので吟行しようということになり 30 分に限りキャンパス内を吟行してもらった。

全員が三句を発表した。これは四回目の授業である。すでに学生は全員俳人なのだ。愛媛新聞の映像報道部の記者になった大津貴圭さんの弁によると俳句学のクラスメイトと未だに交流を続けている。とのことで俳句仲間という親近感は持続されるものらしい。

< 名句鑑賞 >

鉄鉢の中にも霰 山頭火 五七五ではない。五文字が足りない。この句には禅の教え「放てば手にみてり」があったはずである。しかし、山頭火は「放てば手にみてり」をはぶいてしまった。尾崎放哉の句「咳してもひとり」には「日輪暗むほど」があったはずである。これらの言葉をそれぞれの雑原稿から私は発見した。

昨日のこと 「三庵めぐり」の座談会が松山市の主催でひらかれた。

私は、愚陀佛庵の管理者として参加した。そこで上記の山頭火と放哉の自由律についても語った。座談会の内容は松山市の「季刊・文化情報松山」の夏号に掲載される。

三庵とは松山市にある幕末の俳人・栗田樗堂の「庚申庵」、子規が寄寓した「愚陀佛庵」、山頭火の終の棲家「一草庵」である。

< 滑稽の作法 >

【見たままを】ジャンケンの三極どれもチョコキを出し 健

三極は紙幣の原料になる植物で枝が三つに、わかれそれぞれの先端がまた三つにわかれる植物で黄色い花をつける。チョコキは猪の牙のことでジャンケンのチョコキは猪の頭部に似ている。この句は見たままを書いた。

稲畑汀子さんの句に「三極の花三三が九三三が九」がある。

< 「微苦笑俳壇」より >

左遷にも添ひ来しコート捨てられず 清水呑舟

刑事コロンボが着ていたようなコートだろう。よれよれだぶだぶになって「ウチのかみさんがね。ゴミに出そうとしていたのを見つけたんですよ。

ゴミとして出すべきは、むしろ、かみさん冗談ですよ

< 八木 健の 365 句 > 第九歌ふおでんの串が指揮の棒

< 山口誓子の 365 句 > 登山道一步より急天まで急

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 16 日 号

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

老鶯 (おいうぐいす)、傍題に同じ文字「老鶯」

で読み方が異なる「ろうおう」がある。いずれも(夏の季語) 鶯は春の季語だが夏になっても鳴いている鶯を老鶯と呼ぶ。もともと漢詩に用いられた主観的な呼び方で「年老いた」という意味ではない。老鶯がいやなら傍題の「夏鶯」を使えばよろしい。たくさんの鶯が鳴くのを乱鶯(らんおう)という。

< 俳句豆知識 >

「俳句のツボ」という書物がある。辞典などの出版で知られる平凡社の発行で著者は高橋真紀子さん。高橋さんは朝日新聞の記者。2005年四月のこと、大阪本社から松山総局に転勤して、着任早々に砥部の拙宅にやってきた。

大阪本社の方に八木健を訪ねるようと言われて・・・とのことで、早速、八木健に入門し、その勉強記録が毎週日曜日に掲載された。それが一年・・・続いて出版されたのだった。版を重ねているから俳句の本としては珍しく売れている。その本を読んで・・・横浜のランドマークの八木健俳句塾に入門した方が佐治洋一氏。

日立製作所に勤務して海外生活の長かった方。話を豆知識にもどす。昨日、山頭火のことを書いたので思い出して「俳句のツボ」を取り出してみた。たしか・・・山頭火のことに触れた記憶があったから。あった あった・・・188ページに「定型や季語をも超えた山頭火」というタイトルで5ページわたって書かれていた。連載では師匠の肩書きの私も高橋さんに同行。一草庵を取材して、そこで勉強会。一部分を引用してみよう。

鉄鉢の中へも霰・・・あの・・・師匠、根本的なことを聞いてもいいですか？

「どうぞ」

山頭火の句は五七五を無視したり季語がなかったり、俳句なんてしょうか？

「考えがせまいなあ」師匠は笑った。

「山頭火は、あふれ出る魂の叫びを書き留めた。定型や季語を超越した俳句と言えます。始めは定型を詠んだが飽きたらず、自由律の世界へ入ったんだよ」

ふーん 俳句界のアバンギャルドなんですね。

「本人は自然体で、前衛なんて気はなかったでしょう」へえ・・・ふと足元を見ると敷石のきわにタンポポがふたつ。危うく踏みそうになった。

このタンポポを詠みます。

あわや足元に黄色い黄色いタンポポ

「もっと端的に自分の思いと行動を言おう」と師匠。

タンポポ踏みさうになる だけになった。・・・と師匠の添削も山頭火風だった。

< 名句鑑賞 >

行く水におのが影追ふ蜻蛉(とんぼ)かな 加賀千代女

江戸時代の女流俳人 現代の俳人の句とさしてかわりない。見たままを書いているが千代女の発見がある。水に映る自身の影を とんぼ は追っているのだと。

< 滑稽の作法 >

【感じたままを】入学の子にランドセルとりつける 健

ポイントは「とりつける」である。少子化でランドセルのお下がりなんてことはないから、祖父母から贈られたもの。頑丈で背負わせるのにとりつけるような感じになる。

<「微苦笑俳壇」より>

反抗期花にもありぬ掬花 小見山希観子

ねじれ現象を反抗と見たのが可笑しい。するてえと 二人静は夫婦円満。

棘の薔薇は過剰防衛てなことになる。川崎展宏さんの「かたくりは耳のうしろを見せる花」
なんか、かなり艶っぽいよなあ

<八木 健の 365 句> 雀の子餓鬼大将のふところの

<山口誓子の 365 句> 滝音のまとふものなし夜の新樹

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 17 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

蟹(かに)は夏の季語である。俳句の世界で「蟹」といえば「沢蟹」磯や川辺で見られる「小蟹」のことである。松葉蟹 ずわい蟹は 冬の季語となる

<俳句豆知識>

「山頭火の項が面白かった。俳句のツボをもっとつづけて欲しい」・・・とメールを数名の方からいただいた。

俳句のツボは 書店に並んでいますぜひお読みくださいと返信したものの。

メルマガで 一部をご紹介しますのも ひとつの方法かと思いなおして、続けることにしました。山頭火の部分を書きます。

マキコの俳句修行で一草庵を訪ねての俳句づくりの実践を紹介してい。

・・・マキコ・・・あれ猫ガラス戸の外 縁側の下を猫が悠々と歩いて行った。

縁の下猫が行く 師匠端的に詠みました。「猫を見たときのあなたの思いがない。詩が全くないね。 バッサリ 他人の庭を堂々と歩く後姿に驚いたんですが。「では 猫の顔を想像しますか」師匠はこう直した。

自分の庭のような顔して猫

<名句鑑賞>

なきがらや秋風かよふ鼻の穴 飯田蛇笏

この句を最初見たときにあれれ 季語で切っていないぞ・・・と思った。なきがら で切っている。しかも 鼻の穴 で下五で切れている。ちょっと並べ替えてみようか・・・と恐れ多くも蛇笏先生に無断でこれも勉強かと・・・なきがらの鼻に出入りの秋の風

これでは なきがら のインパクトが トーンダウンしてしまう、

秋風や骸(むくろ)の鼻の穴通ふ ムム やはり・・・蛇笏先生の句がよろしいね

<滑稽の作法>

【発見】俳句は発見したことを驚きそのままに書いておくとよろしい。たとえば

春昼の仔豚十匹同じ顔 健

この句では 同じ顔 だということを発見したのだ。前提に 顔は異なる という思い込みがある。だから驚いたのであった。十匹が同じ顔をしている。可笑しい のである。

<「微苦笑俳壇」より>

鵜飼てふ搾取の極み見てをりぬ 三木蒼生

鵜飼は迂回に通ず。大手建設会社に迂回献金させてちゃっかり搾取する政治家は鵜匠みたいなもんだ。違いは本物の鵜匠は搾取を公開でやるのに政治家は公開どころか後悔すらせえへんで・・・

<八木 健の 365 句> 結論はあとにまはして冷奴

<山口誓子の 365 句> 芍薬を嗅げば女体となりゐたり

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 18 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

「梅」だけで「梅の花」のこと 春の季語 梅の実 は夏の季語 青梅・・・も夏の季語 梅は実に・・・も夏 梅干す は夏の季語 梅漬けるも夏の季語 漬けたものを「梅干」というが これも夏の季語 梅干飾る は新年の季語 皺が多いからご高齢の顔で長生きがめでたい。

<俳句豆知識>

山頭火の句について二日続けて書いてしまったが 少しさかのぼって 江戸時代の小林一茶 についても書いておきたい。

一茶は 長野県信濃町(当時は柏原)の百姓家の生まれた。三歳で母親に死なれ、義母と折り合いが悪く、14 歳で奉公に出された。14 歳から 25 歳までの動静は不明である。33 歳のとき 歌仙を巻くために栗田樗堂を訪ねて松山にやってきた。

歌仙とは 36 句つなげる俳諧の連歌のことで 今では「連句」と呼ぶ。

一茶は 西日本の著名な俳人のあらかたとお手合わせしている。西国の行脚でできた句を「たびしうゐ」これは処女選集。行脚中のことを書いた「西国紀行」もある。生涯 30 冊を出版し、二万句をつくっている。どなたかから「俳句を学ぶのに良い先生はいませんか」と尋ねられたら即座に「小林先生がよろしいです」と答えるだろう。「先生の名前は一茶です」と。

<名句鑑賞>

我と来て遊べや親のない雀 小林一茶 一茶は
全国を放浪し、50歳を過ぎて故郷に戻っている。是がまあつひの栖(すみか)か雪五尺・・
そこでこどもの頃を思いだしてたくさんの句をつくった。
雪とけて村一ぱいの子ども哉 口語俳句の元祖みたいな俳人である。

<滑稽の作法>

【真実の発見】「滑稽の作法は発見にあり」である。
自分だけが発見したものは誰かに知らせたい・・ということ。たとえば
人間はことごとく敵子猫咬む 健
可愛がってくれる人間も、捨てようとたくらんでいる人間も子猫は 敵として咬む本能
を持つ。人間はことごとく敵なのである。 そのことを発見したのである。

<「微苦笑俳壇」より>

柱なきマンションに住み子供の日 草薙一朗
マンションに住む悲哀。不景気でマンションの売れ残りがかなり多いらしいね。住宅会社
は、この句にヒントを得るだろう。「子供の日に背比べして傷つけるための柱を用意いた
しました」なんてね

<八木 健の 365 句> 空透けて見ゆ松手入をへし松
<山口誓子の 365 句> 祭りあはれ奇術をとめを恋ひ焦がれ

愚陀佛庵通信

2010年5月19日号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

心太 ところてん 夏の季語 心太の原料は 天草(てんぐさ)である。天草をかつて「心
太・こころぶて」と呼んだ。それが訛って「ところてん」になった。天草を煮て凝固させ
たものを「寒天」と呼ぶが 寒天にさらすからである。語源を調べると面白い。

<俳句豆知識>

昨日・・小林一茶のことを書いたが 拙著「八木健のすらすら俳句術」(岳陽舎刊)に一
茶のことを書いていた。インタビュー形式である。

八木 旅から旅 申し上げにくいのですが、乞食同然だったとも言われておりますが、
一茶 アシはなににも恥ずかしいことはない。当時は元禄景気で世の中は浮かれておったが

アシのような俳人は「清貧を尊し」としたものよ 秋の風乞食は我を見比ぶる という句もつくり申したほどじゃ アシの江戸のパトロン 夏目成美から来た手紙がここにある。「貧乏人の友達がなくて困っている。早く戻って来てくれ。先日、先生のことを思い出して 花すゝき貧乏人をまねくなりという句をつくり申した。

とある。だから 松山に来て半年、居候しても歓待されたわけです。

<名句鑑賞>

火だるまの秋刀魚を妻が食はせけり 秋元不死男

前項に貧乏のことを書いたが 秋元不死男 も 清貧の暮らしというか貧しい生活だったようで、秋刀魚は特別食というか ご馳走だった。

その秋刀魚が火だるま というから 熱々の焼きたて 「食わせけり」として妻に無理やり食べさせられるみたいなことを言ってるが 「かあちゃん ありがとう」が透けてみえる一句である。焼きたての秋刀魚を妻と昼食に では なんと甘ったるくて俳句にならないのである。

<滑稽の作法>

【ものは言い様】どしやぶりとなりたる蝉の時雨かな 健

蝉時雨は蝉の鳴き声を雨にたとえたものである。それが強くなったら 土砂降りだろうというのがこの句の滑稽味である。

<「微苦笑俳壇」より>

ここだけの話の漏れるおでん酒 安居雅寿

「うわさ」を広めたいなら「絶対内緒だよ」と付け加えることが肝心です。俳句雑誌の雑詠欄で、俳壇の微苦笑俳壇が一番の人気 これは内緒にしてください。投句がこれ以上増えては困ります。

<八木 健の 365 句> おむすびのころがり山も笑ひけり

<山口誓子の 365 句> 碧揚羽通るを時の驕りとす

<季語の蘊蓄(うんちく)>

昨日は蒸し暑かった 梅雨を目前にして吹く「黒南風 くろはえ」が 愛媛大学構内の青葉の茂りをゆらしていた。梅雨が明けて乾いた「白南風 しろはえ」 が吹く頃には学生

諸君は 先生、吟行に出ましよう・・・と言い出すに違いない。その頃は「緑陰」に佇んで「吟行俳句相談所」を開くことになる。

<俳句豆知識>

小林一茶が面白い・・・と反響多々。ということはつづけましようということになります。

八木 波乱の生涯でしたね 江戸の俳句の宗匠から破門されたりしたことも・・・。

一茶 そうじゃ 諸国のさまざまな俳人と交流したのが気に食わなかったんじゃない。

八木 現代でも、そうした傾向があります。

一茶 嘆かわしいのう 昔とちっとも変わったりやせんのか

八木 それでは 本題の一茶流俳句について教えてください。

一茶 アシは生涯に二万句をつくり申した。芭蕉の千句 蕪村の三千句に比べるとアシの方がかなり多い。子規さんは二万五千句ほどつくっておられるが、あの人は同じような句がたくさん ありますからなあ。

八木 はい そりゃもう 小林先生の方がいいいと

一茶 急にアシを先生と呼ぶんじゃない 一茶でよろしい。

<名句鑑賞>

此道や行く人なしに秋の暮 松尾芭蕉 芭蕉晩年の作

芭蕉は俳諧の連歌で「蕉風」を打ち出した。さび さび しをり・・・である。

一段高い文芸を志向したのだった。そして行き着いたところが「軽味」だった。

「軽味」は「滑稽」ほど 前面に可笑しさを出すのではなく 飄々とした中ににじみでるゆとり のような笑いである。しかし、その「軽味」を 門人たちは 理解しなかった。

その意味で芭蕉の蕉風は受け継がれなかったと言っていい。

あとに続く者のいない寂しさが「行く人なし」の句になった。

<滑稽の作法>

【・・・やうに】秋天をいけどるやうに投網打つ 健

「やうに」「ごとく」は使うな と教えられる。がしかし、投網の名人は 秋空をいけどる その結果 水面に 広がった状態の投網がおちる。そして獲物を一網打尽にするのである。四万十川の川魚漁師を詠んだ句である。滑稽の方法。それは「やうに」「ごとく」を使ってよろしい。ということ 基準は「結果として読者に「なるほど」と思わせることが出来るかどうかである。

<「微苦笑俳壇」より>

篤姫をすつぼんぼんに菊師たち 横山喜三郎

菊花展の閉幕で衣服としていた菊をはずしたんですね。すつぼんぼん。

菊師はそんな「イヤらしいこと」考えません。横山君は想像力の正直を俳句にして・・・つまり菊花展を二度楽しんだわけさ

<八木 健の 365 句> 白南風や漁網つくるふ太きゆび

<山口誓子の 365 句> 浸けし手に河鹿の声す五十鈴川

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 21 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

更衣 ころもがえ 一般的には 6月1日に 夏服に替える 更衣は中国から輸入された用語 日本の言い方をそのままあてはめた。だから衣更 とするべきだったが。冬服に替えるときも 更衣 は季語かというところでない 夏服に替えるときだけなのだ。

<俳句豆知識>

小林一茶がとまらない。

八木 生涯独身かと思ったら 結婚なさっていますね。

一茶 莊じゃ 生まれ故郷の信濃に戻ったのは 51歳のとき、「きく」という名の娘と結婚して 10年間に男の子3人と女の子1人をもうけたが成長せずにみんな死んでしまった。きくも死んだ。そのご二度目の結婚をしたがすぐに離婚。三度目の結婚をしたのは 64歳の時じゃった。しかし、その翌年にはこの一茶が死んでしもたわ。腹ちがいの弟と父親の残した遺産の相続で長いことごたついたりしましてな。故郷やよるもさはるも茨の花 という句がある。

48歳のときの句じゃ。故郷に帰ったアシはお湯の一杯も出してもらえず悲しい思いをしたものよ

八木 明日はまた続きを伺います。一茶らしい俳句をいろいろご紹介ください

<名句鑑賞>

百舌に顔切られて今日が始るか 西東三鬼(さいとうさんき)

三鬼は洗面所で 髭そりをしていたのである。眼前の小窓から見える木のでつぺんに百舌来た。一声するどく鳴いた。驚くほど大きな声。痛! 髭剃りの手元が狂って少し切れた。むむ、百舌の鋭い声に切られたとしたら面白いぞ。名句になるかも知れんぞ。

<滑稽の作法>

【ときどき 客観視】 春愁のとどのつまりの大あくび 健

深刻な春愁の渦中にいた。頬杖を何本も使ったほどだ。悩んだからといって結論の出るようなものではない。方法はひとつ 決断するかしないか・である。疲れ果てて「あくび」をした時に春愁に閉じ込められていたことに気づいた。

<「微苦笑俳壇」より>

婚活の書類えんこら神の旅 高橋素子

おそらくは去年の出雲会議で少子化が問題になって今年は婚活にちからを入れることになったんだろうが、神無月を二ヶ月にして若い男女にしたい放題させたなら、少子化は改善されるだろうに

<八木 健の 365 句> けもの径けものの糞に葡萄の種

<山口誓子の 365 句> 山国は大粒の雹箆に獲る

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 22 日 号

<季語の蘆蓄(うんちく)>

若葉 わかば 初夏の季語であるが 季語として使う場合何枚ぐらい なのか 一枚 いえいえ数枚 いえい その木全体 あるいは 一帯、山全体をさしているのである。木の名前をつけて 樟若葉 柿若葉 梅若葉 椎若葉 などあるいは 場所を特定して山若葉 里若葉 峪若葉 など この頃の雨を若葉雨 風を若葉風 という 青葉は 若葉より夏が深くなっているものである。

<俳句豆知識>

小林一茶はまだ続く

先生の御句で私が存じあげている句と申しますと

是がまあつひの栖か雪五尺

その句はアシが 50 歳の時の句じゃ

雪とけて村一ぱいの子ども哉 この句はいいですね。

52 歳の時の句じゃ。 口語俳句の元祖みたいなものよ

涼風の曲がりくねつて来たりけり

53 歳の時、江戸に暮らした頃を思い出してつくり申した。長屋の貧乏暮らしで涼しい風も曲がりくねりもってアシの住まいにたどりつく 自嘲的な句じゃ

瘦蛙まけるな一茶是にあり

54歳の時の句ですね。交尾する雄の蛙を自身にたとえただろう などと 後世の批評家が勝手なことを書いておる。

それは申し訳ない 私が詫びるのも妙なものですが

<名句鑑賞>

きちきちといはねばとべぬあはれなり 富安風生

この句の季語は「きちきち」は飛ぶときの羽音でもあり ばったのことで 「はたはた」も同じくである。句は羽音をうまくつけた。「いはねばとべぬ」は 音で存在を知られてしまうことをさしている。逃げる際に音が出てしまうことに同情しているのだ。

<滑稽の作法>

【擬人化】肘張つてこの池を出ずあめんぼう 健

肘張つて・・・は形態であるが 肉食で獰猛な昆虫の威嚇的な態度を表現したもの。威張っているが 世界はこの池だけということを哀れんでいる。

<「微苦笑俳壇」より>

自然薯の脛にも疵の数多かな 山本 賜

脛に見立てたのがよろし。「にも」と言うからには「自身の脛」と比較している。ご主人様の脛なら「毛脛」にして「自然薯の毛脛に疵の数多かな擗り潰しては恨み晴らさむ」と短歌に

<八木 健の365句> 足袋を履くゆびを前進させて履く

<山口誓子の365句> 太陽の出でて没るまで青岬

愚陀佛庵通信

2010年5月23日号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

浴衣 ゆかた 夏の季語である。昨今はお洒落な外出着にも使われるが起源は 平安時代の湯帷子(ゆかたびら) 帷子は汗取りの肌着である。入浴の際に・・・つまり 他人に肌を見せないようにと着た。着たまま入浴した。安土桃山時代になって 入浴後に着るようになった。いずれにしても「浴衣」の語源としては納得。古浴衣 貸浴衣 藍浴衣

<俳句豆知識>

小林一茶の続き 面白い句がありますね

大名は濡れ通るを炬燵かな

それよ アシが晩年に住んだ郷里の柏原は北国街道の宿場町 加賀の殿様が参勤交代で通る。雨に濡れなさない。それにくらべてアシは炬燵ぶぬくぬく。大名を揶揄した句じゃ。

蟻の道雲の峰よりつづきけん

この句は 57 歳の時の句ですが 映像的に素晴らしいですね 好きです。

蟻という小さなもの、雲の峰という大きいもの、この対比が見事じゃろ。

八木さんの句にも似たのがおありじゃったが はい「雲の峰めざしボンネットバスのぼる」ですか。先生の蟻の方がいい句

なにをいうお前さんの句をアシの句と比較するのはおこがましい

< 名句鑑賞 >

さみだれや大河を前に家二軒 与謝蕪村

牧歌的な句と思われているが実は さみだれが 大河の増水をもたらす かも知れぬ。危機を予感の句なのである。どうして二軒なのだろうか。ならんでいるのだろうか。蕪村は画家である。仮に並べて描いたとしても大小の家として描く。一軒では絵になりにくい。遠近を描くにも二軒あればこそである。

< 滑稽の作法 >

【本歌取り】 怠けぐせ治らず春の海のたり 健

蕪村の春の海ひねもすのたりのたりかな の句が下敷きになっている。

< 「微苦笑俳壇」より >

初恋は正月にする恋ならむ 阿形兼博

「オトコカマトト」は遊び上手。「あら阿形さんは毎年初恋してるの?」「うん毎月かな・・今月の初恋」「ウソよ今週でしょ」「いっそのこと今日の初恋にしようか」「今日の失恋もあるわよ」

< 八木 健の 365 句 > 犬二匹見渡す限り冬田なり

< 山口誓子の 365 句 > 波にのり波にのり鶺鴒のさびしさは

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 25 日 号

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

ロダイろだい 夏の季語 バルコニー ベランダ テラス が傍題になっているつまり季語である。そこで気になったのは 暖炉のこと 冬の季語だがストーブ スチーム ヒーターは傍題であるが マントルピースは傍題になっていない。あれはつくりつ

けの家具みたいなもので・・年中出しっぱなし ということか

<俳句豆知識>

小林一茶 かいません お若い頃はどのような句をおつくりでしたか
26歳の時の句がある。

淋しさはどちら向いても董かな

名月を重ねつこけつ波の間

34歳の時の即興の句がある。

正月の子供になりて見たきかな

いいですね 素直です。旅の句ではどのような

早立ちのかぶせてくれし蒲団哉

それは早立ちの人が寝相の悪い一茶さんに蒲団をかけてくれたそうじゃ 相宿のお方じゃ

叱らるる人うらやまし年の暮

叱られる人がうらやましいとはどううことですか

乞食同然でうろついておったから、アシには叱ってくれる身内もない。大きな声で叱られる。うらやましいと思ったのじゃ。

<名句鑑賞>

夏痩せて嫌ひなものは嫌ひなり 三橋鷹女

痩せると気弱になるもので 一般的には 消極的な人間になると思われているが 鷹女は嫌いなものは嫌いだと きっぱり言い張る強情が 武士は食わねで高楊枝で可笑しい。俳句には 作者の顔が見えなくてはならないの見本のような句である。

<滑稽の作法>

【俗語を使う】一匹の蚊にストーカーされてゐる 健

ストーカーは俗語である。品のない用語である。しかも最近出現した用語である。そういう言葉をおくせず使うところに 俳諧の連歌として出発した当時の精神をうけつぎたいのである

<「微苦笑俳壇」より>

三脚のにじりよりたる月下美人 安居雅寿

村祭り、運動会とアマチュアカメラマンは被写体を求めてかけつける。月下美人の咲く夜とあらば今や遅しと待ち構える。「にじり寄る」でカメラマンの図々しい様子を活写。いい加減になさい

<八木 健の365句> 恋ふひとに草矢を射られ死んだふり

< 山口誓子の 365 句 > するすると岩ををするすると地を蜥蜴

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 26 日 号

< 季語の蘆薈(うんちく) >

昨日の本項で冒頭 「露台(ろだい)」が消えていました。ごめんなさい。

虞美人草 くびじんそう 初夏の季語 ヨーロッパ原産のケシ科の二年草。草丈 50 センチ
楚王項羽の寵姫 虞氏が死後この花に 化したとの由来からで フランス語で「コキリコ」
「コキリコ」と言えば、日本では 小切子 という民族楽器 富山県の平家の落人部落に
伝わる民謡コキリコ節で使う。

コキリコのお竹は七寸五分じゃ 長い は あ袖の邪魔になあるう富山勤務の頃はよく歌
ったものだ。その頃はカラオケがなかった。

< 俳句豆知識 >

小林一茶 最終回

名月の御覧の通り屑家かな

これはおんぼろの家に住んでいたということですね

じゃから 月に話しかけることもできるんじゃ 話しかけると句ができる

早乙女や簪にからまる草の花

蝶飛ぶや此の世に望みないやうにこうした句は感覚も新しいですね。 基本的には日常の
景色を的確に描写。俳句の作り方の基本じゃ。

やれ打つな蠅が手をすり足を摺る

蠅の身になってみればこういう句もできる。

目出度さもちう位也おらが春

自分を掌にのせれば、めでたさの程度もわかる

「ちう位」はネズミ年だったからですか なぬ？

< 名句鑑賞 >

まかりいでたるはこの藪のひきにて候 一茶

狂言の名乗りに「まかり出でたる者はこの辺りに住まひいたすものにてござる」をそのま
まつかった。一茶は のっそりと などとは言わず「のっそり感」を演出したのである

< 滑稽の作法 >

【機知と擬人化】幾何学が好きで三椏やってます 健

滑稽句を型にあてはめるのは、そもそも類型化につながるわけで、自身の句を分類するたびに擬人化に入れたり誇張に入れたりゆれ動くだから、ひとつの型にするのではなく、複数の型を共有すると考えたほうがよろしい。この句き擬人化だが、三桎がお洒落なことをつまり機知の受け答えをしたのである。

<「微苦笑俳壇」より>

外泊の夜はひとり寝の竹夫人 前川敏夫

竹夫人を擬人化したかに見えて外泊の作者が竹夫人を思う一句である。

ここを見破らないといけない。毎晩抱き続ければ情も移るだろう。エアコンの効きの悪いホテルならばなおさら恋しい筈だ

<八木 健の 365 句> 告白のとき埋めゆく初紅葉

<山口誓子の 365 句> 早乙女の裾を下ろして羞じらへり

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 27 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

新茶 しんちゃ 夏の季語 新茶が出ると それまでの茶は 途端に古茶になってしまふ。新茶はいつまで新茶なのか・古茶が出るまでは新茶と言っていいのだろうか 年が明けたら新茶とは言えないだろう。新茶を走り茶 ともいう。昨日の愛媛大学の俳句学で「走り梅雨」という季語が登場した。学生のひとりがうまく説明した。「五月末の梅雨の前ぶれ」であると。新走 あらばしり という秋の季語がある。これは新酒 のことである

<俳句豆知識>

女流俳人 女流とつけるのは、今はほとんどない。なぜなら 俳人の大部分は女性だからである。明治時代までは俳句は男性のもので、短歌は女性が嗜むものであった。虚子が俳句人口を増やすために、台所俳句を提唱して以後、女性の俳人が増えた。まじめにやるから、男性より上達が早い。夫婦で始めると妻の方がうまくなってしまふ。これは一般論である。

<名句鑑賞>

月やさし葭切葭に寝しづまり 松本たかし

葭切は、夏に渡来する渡り鳥で「雀」に似ている。葦の中にいる虫を食べるので、この名がある。俳句では、行々子 ぎょうぎょうし と呼ぶ。ギョギョケケシー と鳴くので

この名がついたのだろう。句は 夜も更けて ケタタマシイ鳴き声の鳥が寝しづまり・・・で静寂を演出した。

<滑稽の作法>

【擬人化】終生を夜勤に励み油虫 健

油虫は嫌われものだが この句は 夜勤に励み として 存在を肯定している。俳人はこのようにやさしくならなければならぬ。しかし、腹へつてゐるんじゃないか油虫 とまでは言わぬ 言ったとしたら一茶ぐらいなもんだ。夜勤に励み はNHK時代に毎週または隔週で泊まり勤務があり、思い出して共感したのである。

<「微苦笑俳壇」より>

シャムペルシャ国境越える猫の恋 杉崎弘明

国境を越えるがいいね。猫自身は国籍なんか意識してはいない。しかし飼い主の立場では純潔種の保持が難しくなるから具合悪い。日本人も国際結婚が増えており、将来純潔種は人間国宝になるかも。

<八木 健の365句>この部屋の先住民の蠅虎 はえとりぐも

<山口誓子の365句>万緑やわが掌に釘の痕もなし

愚陀佛庵通信

2010年5月28日号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

初鯉 はつがつお 夏の季語 かつては 江戸時代に季語となった・・・ということは東京湾沖に回遊したものが獲れた時期ということであった。厳密には、旧暦の四月朔日(1日)から一週間以内に、関東沖で獲れたものだけを"初鯉"と呼んだ。今は業界は高知沖で獲れたものを言うからもっと早い。鯉は堅に魚とか書く 鯉節にしたときに堅いことからかたうお と呼ばれ それがかつお となり 表記も鯉となった。

<俳句豆知識>

俳句人口 500万から1000万 といわれていますが はっきりしたことはわからない。統計をとるのが難しいからで、釣り人口と同じとも言われている。何句つくったら俳人かと言えば 一句でもつくったら俳人である。とするなら2000万ぐらいにはなる。俳句だけで「メシ」を食っている人はほとんどない。全国に結社は800から1000はある。その主宰の多くは年金生活者である。

<名句鑑賞>

目に青葉山不如帰初鰹 山口素堂・

季語だけ集めたような句である。俳句には季語はひとつだけ使う。ということに反論できる一句である。同じ季節の季語なら複数の季語を使ってよろしい。ただし 中心になる季語が明確でなければならない。この句の中心の季語は言うまでもなく「初鰹」である 初鰹を食べながら目は青葉を耳にはほととぎす の声を楽しんでいるのである。

<滑稽の作法>

【文字から発想】大男コガタアカイエカに悩む 健

この句はコガタアカイエカを句にしようと考えてつくった。「コガタ」に対して「オオガタ」というところから、大男を思いついた。結果として 強者に抵抗できる弱者の代表としての蚊を描き、強い者にも必ず弱点があることを教える一句となった。

<「微苦笑俳壇」より>

御慶述ぶインターホンに一礼し 安居雅寿

上司のお宅を訪ねての「新年の挨拶」。生憎、先客があったのだろう。こんな破目に。インターホンに一礼が可笑しいが。可笑しいよりも哀しい。哀しさが透けて見えるのが、ホンモノの滑稽だ。

<八木 健の 365 句> てのひらをくまなく調査天道虫

<山口誓子の 365 句> 万緑に石組人間不在の詩

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 29 日 号

<季語の蘊蓄(うんちく)>

月見草 アカバナ科の二年草 北米原産の白い花が夕方に咲く江戸時代に栽培されたが今は姿を消した。今、世間で月見草と言われている「黄色い花」をつけるのは「大待宵草」である。実は、月見草を詠んでいる俳句のほとんどが、大待宵草である。太宰治が「富士には月見草が良く似合う」といったのも大待宵草のことだった。

<俳句豆知識>

俳句をイベントに取り入れる。松山ならでの演出である。

昨日のこと、「にぎたつ会館」で全国国立大学実験動物施設協議会の総会がひらかれた。参加者から俳句を募集。八木健が選者と講評を担当した。最優秀句は信州大学 松本清司さんの「あいさつの城までつづく若葉坂」。

松本さんは早起きをして松山城に登った。城までの道々出会う松山の人たちは必ず挨拶をしてくれた。松山の第一に印象的な出来事である。誰でも、一日にひとつかふたつぐらいは。印象的な何かに出会う。それが俳句になる。

< 名句鑑賞 >

羽子板の重きが嬉し突かて立つ 長谷川かな女
豪華な羽子板を買ってもらった少女の嬉しさ。重いのが嬉しいという意外性。
羽子板の句でも視点を変えることで読者を驚かした。句の根底に正直がある。

< 滑稽の作法 >

【擬人化】ソーメンや樋の清流のりこなす 健
ソーメンがもんどりうって流れてゆく様子に「上手にのりこなしている」ように感じたのである。あらゆる滑稽句の中で擬人化は中心的技法である。

< 「微苦笑俳壇」より >

竹刀置き父の眼となる寒稽古 清水吞舟
竹刀を置いた瞬間にやさしい父親の目に戻る。模範的な子の教育法と言える。
句の滑稽は「父親の目の表情の鮮やかな変化」にあるが、実は剣道しか教えることが出来ぬ父親の満足の瞬間かも知れぬのだ。

< 八木 健の 365 句 > 灯にかざす草刈鎌の凶器めく

< 山口誓子の 365 句 > 噴水高揚る水玉が水玉追ひ

愚陀佛庵通信

2010 年 5 月 30 日 号

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

「暑し」夏の季語である。

日本の夏の暑さは高温多湿で熱帯並である。その気分が季語となった。ところが「涼し」も夏の季語なのである。これは暑さの中で出会う一時的な涼しさのことで、傍題を見るとそのことが理解できる。朝涼 夕涼 晩涼 夜涼 などである。

< 俳句豆知識 >

俳句と即興 山本健吉がかつて 俳句の三命題として 滑稽 挨拶 即興 をあげた
即興といえば 祝賀会のスピーチで 即興句を披露したことがある。10年前のこと。富山

県魚津の結社誌「喜見城」の創刊 600 号の祝賀会に招かれたときのことを「すらすら俳句術」に書いている。以下、数回にわたり転載する。

「来賓の祝辞は五人。私めは五人目である。以下は私めの祝辞である。「俳句王国」の司会をしております八木健です。難しい話はできません。私の得意技はアドリブです。これまで四人の方のご祝辞を伺っておりまして、それを五七五にしてみました。俳誌「喜見城」は創刊当初はガリ版刷り。粗末な紙の俳誌でみなさん猛勉強をなさったと伺いました。ガリ版とガリ勉で一句洒落てみました。「ガリ版の句誌で俳句のガリ勉を」お話を伺っておりますと「喜見城」の主宰・長沼紫紅さんの深いお考えとご努力があってこそということがよくわかりました。そこで「六百号思考(紫紅)の力あればこそ」と思ったのでございます。

< 名句鑑賞 >

涼しさや鐘をはなるる鐘の声 蕪村

このあたり目に見ゆるものは皆涼し 芭蕉

二句をならべると 作者の持ち味の違いがわかる。「涼し」をテーマにしての比較だが、蕪村は音という非視覚的なものを「はなるる」と描写する「ウルトラ C」を使っている。芭蕉は 視覚を非視覚に置き換えている。

< 滑稽の作法 >

【擬人化と俗語】失踪の前歴のあるかぶと虫 健

俳句に「失踪」とか「前歴」という言葉は普通は使われない。俳句は上品なものと勘違いされているからである。この句は 俳句を始めてから半年ぐらいで創った。俗語と擬人化を意識しての作である。

< 「微苦笑俳壇」より >

裸婦像の乳房ばかりに降りる霜 壽命秀次

滑稽は「思い込み」にある。その思い込みを断定的に描く。霜は裸像の他の部分にも降りていて「裸婦像の股間に溜りたがる霜」などとしても良いのだが、この際、作者の乳房へのこだわりに拍手。

< 八木 健の 365 句 > 父の馬まだ駈けて来ぬ草競馬

< 山口誓子の 365 句 > 海上の見知らぬ村は烏賊火村

<季語の蘊蓄(うんちく)>

鮎 あゆ 夏の季語だが全国的に六月一日が鮎漁の解禁日なので もの日を知っていると季語の使い勝手がいい。傍題に「年魚」(ねんぎょ) 香魚(こうぎょ)がある。年魚は一年しか生きないからである。香魚は 川石につく苔を食べるから 香がいい。釣り上げてその場で噉り食う釣り人もいる。なお「若鮎」は春の季語。

<俳句豆知識>

即興のスピーチについて書いている。

「喜見城(きけんじょう)」は 厘気楼(しんきろう)のことなんだそうですね。厘気楼は 「心気労」とも書きます。一口に六百号と言っても大変なご苦労があたりだったでしょう。ご苦労の積み重ねです。そこで・・・「心気労重ねて六百号となり」 さきほどのかたが「富山がふるさと」とお話になりました。

実は私は昭和36年にNKK 富山放送局に赴任しました。初任地なので私にとっては、第二のふるさとなのです。そこで「私にとってもふるさと越の国」・・・このように オヤジギャグの連発だが、直前の数人のスピーチを受けて即座に575につくるとオモシロイ 活字にしてしまうとあまり面白くないのだが。

<名句鑑賞>

心太(ところてん)煙のごとく沈みをり 日野草城

水の張られた桶の底に重なるように沈んでいる心太を詠んだものだが、心太が水の中では消えているように見えるので「煙のごとく」としたものである。「煙のごとく」が誰も思いつかなかった表現なのである。

<滑稽の作法>

【擬人化】押し合ひへし合ひわさび田のわさびたち 健

俳句王国の番組収録で、長野県の大王わさび農園に吟行しての作。蜜植されてしかし肥料をたつぷりと与えられた山葵を詠んだ。吟行はその場で受けた印象を描くもの。参加俳人のひとり「道ひとつ間違えわさびの花に会ふ」などという句を提出した。事前に作っておいたと思われる。番組の句会ではそんな句に点が入った。番組の句会では点が入らなかった「押し合ひへし合ひわさび田のわさびたち」は後日、連句協会の理事 松永静雨さんから「ひどく」褒められた。ひどく・・・はプラスイメージで使っている。

<「微苦笑俳壇」より>

母の字の父の名で着く今年米 清水吞舟

オレ、東京じゃパン食べてるよ。この前送ってくれたお米はさあ半年ばかり放っておいたら蛾が飛び出したから驚いちゃったんだ 親の気持を知らない馬鹿息子の懺悔の一句と見たがどうだろうか

<八木 健の 365 句> 初鯉どんと俎板おしつぶす

<山口誓子の 365 句> 杜(もり)に入る一步に椎の花匂ふ

このメルマガ 今年の1月1日から 発信している。10年ほど前からさまざまなタイトルで発信し続けているが 雲散霧消してしまったので今年は 滑稽俳句協会のホームページに バックナンバーを掲載すること